WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！

ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただいております。

保証内容　＊通常使用による保証期間　：　3年
＊クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間　：　1年
（パーツ代や交換品については実費となります）

保障対象外パーツ（下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。）
＊ポッドハーネスのつま先部分（地面との摩耗部分
＊ネオプレーンゴム部分
＊ジッパー
＊超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
＊ハーネス本体以外の部品（カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板　等

修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。

㈱スポーツオーパカイト
東京：
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15
TEL: 03-3291-0802
http://www.opa.co.jp/

メンテナンス部: 〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900
〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900
TEL: 0299-44-3642　FAX: 0299-44-3939
email: itajiki@opa.co.jp

THANK YOU！

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の２点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填
あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは２日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱いましょう。

ハーネスの調整
ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ
ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険･警告
１） 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。 ２） 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。 ３） 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

INDEX

１－　一般情報

この装備に含まれるのは：

ハーネス
ポリカーボネイト座板
カラビナ２個
緊急パラシュート開傘ハンドル
緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備２個）

オプション：

サイドプロテクター
スピードバー
リラックスバー
クイックカラビナ

１－１　コンセプト

ハスカは、全てのレクレーショナルパイロットのための新しいインターミディエイトハーネスです。安全で多くの特徴を持ち、快適です。エックスレイテッド６ハーネスで培われた新しい配置のベルトシステムのおかげで、運動性と安定性を高い次元で融合させる事が出来ました。

１－２プロテクションシステムと安全性

この新しいハーネスにおいて、自己膨張型セルフインフレイティングエアバッグと呼ぶところの、脊椎防護における新コンセプトを生み出しました。このセルフインフレイティングシステムの新機軸は、スチール製スプリングの使用にありますが、これはスプリング自体が衝撃を吸収するのではなく、いつでもエアバッグが衝撃を吸収できるようにエアバッグを広げておくというものです。このようにして、テイクオフで走り出す前であっても１００%の衝撃吸収力があり、リュックサックに収納する為にハーネスをたたむまで、飛行中もずっとこの状態が保たれるのです。またスプリングであるためにエアバッグの安定した形状が保たれ、いかなる湿度、気温に対しても、あるいはリュックサック内に収納したままであっても、長期間にわたって性能を維持する事が出来ます。軽量と収納時体積の小ささも、スプリングによるセルフインフレイティングシステムの２大長所でしょう。このシステムこそ、エアバッグとムースタイプという２つのプロテクションシステムの長所を併せ持つものなのです。

骨盤を守ってくれるオプションとしてサイドプロテクターもあります。この２つのサドプロテクターはお互いに繋がっていて一体となっており、衝撃が加わった時にずれることを防いでいます。

足ベルト閉め忘れによるパイロットのハーネスからの脱落を防ぐうえでその効果が大いに認められている２つのセーフティーシステム、ゲットアップ、あるいはＴロックのどちらでも選択する事ができます。

１－３　ＳＯＳラベル

赤字に白文字のとても目立つＳＯＳラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。すぐに取り出せますが、脱落しないようにハーネスにつながっています。このＳＯＳラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要と思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。

２－　ハーネス使用の前に

ハスカは、パイロットを担当するインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、充分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後にのみ、ハーネスの調整を行ってください。

２－１　緊急パラシュート

緊急パラシュートのコンテナは座板の下のハーネスの前部にあります。このコンテナは充分な大きさを持ち、現在の市場で出されている緊急パラシュートのほとんどに対応しています。緊急パラシュートをハーネスに装填する際は、最初に緊急パラシュートのブライダルをハーネスのブライダルへ取り付けてから装填して下さい。ハーネスのブライダルは２箇所でパイロットの肩の高さで接続されており、このことで開傘時の荷重配分とパイロットの着地姿勢を確実にして、着地時に負傷する可能性を最小限に減らしています。このコンテナのブライダルのパラシュート側のエンドは、コーデュラ５００生地のカバーで補強された赤色の大きなループになっています。このループの端にはベルクロがついていて、緊急パラシュート側のブライダルとの結束が緩まないよう保持してくれます。

２．１．１－　レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け

ハスカには、緊急パラシュート引き出し用のハンドルが付属しています。このハンドルの識別番号は６番で、そのほかのハンドルの使用は出来ません。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してからしっかり引き絞って、ハンドルを取り付けます。緊急パラシュートの引き出しを確実にするためには、緊急パラシュートの中心よりも引き出し口側の中心線上の位置でハンドルのループをデプロイメントバッグへ取り付けてください。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。

２．１．２－　緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、３つの方法があります。

接続方法その１
2,000kg 以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。

接続方法その２
まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、２つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。

接続方法その３
もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので２本ブライダルをもっているか、いずれにしても２本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある２つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで２本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。

２箇所のブライダル接続にはそれぞれ 1,400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナ（ラピッドリンク）を使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも充分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいにパラシュート本体が先にデプロイメントバッグから引き出されることがないか、をチェックすることが重要です。

重要：
横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか１つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの２つのループへそれぞれ接続してください。

２．１．３　緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルのデプロイメントバッグへの取り付けループが上側にくるようにしてください。

ハンドル基部左右をハーネスのスリットへ入れてください。

後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムーラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通してください。

ブライダルカバーのジッパーをいったん右へ開け切ってから左へ２０ｃｍ閉めて下さい。それからいろいろあるフラップを、以下の写真の順番で閉じていってください。この作業の際にジッパーが開いてこないよう注意してください。

ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの下のハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。（ヒモをメタルピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）最後に、ジッパーを完全に閉じ、ジッパースライダーが左の肩ベルトの後ろのカバーの下に入っているようにしてください。

重要：

緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

２．１．４　緊急パラシュート開傘操作

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。
・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
・外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートを離れた方向へ投げる。
・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも１本のＤライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。
・着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、ＰＬＦ（５点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

２－２　ハーネス調整

ハスカには多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

ハスカは出荷時に標準的な体型の調整がすでに施されていますが、パイロットの身長へ対応する調整は行っておりません。そこで、初飛行の前に他の調整はそのままで高さの調整だけを行う事をお勧めします。他の調整についてはほとんどのパイロットにとって満足できるものである事がわかっています。なお、全ての調整ベルトに赤い印が付けられていて、これら他の調整を行う際に、いつでもメーカー設定値に戻せるようになっています。

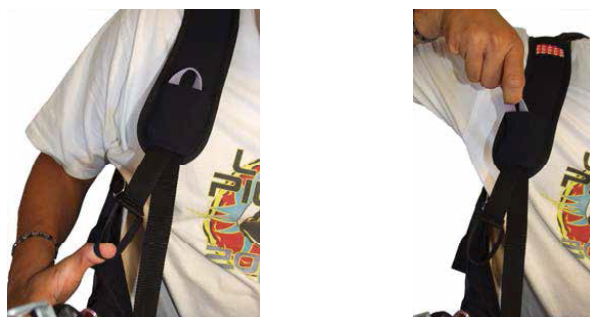
調整作業は、まず緊急パラシュートを装填してから行なってください。そして、最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備･収納品を再現して飛行時と同じ条件･ポジションでチェックしてください。

２．２．１　背中と座板の調整

下記の写真で示したとおり、背中の角度調整と座板の深さ調整はそれぞれ分かれていて、２つの調整ポイントがあります。垂直方向に対して上体をどれだけ後へ傾けさせるかの角度調整は、No.１で行います。No.２では、脚と背中の間の角度（シートの深さ）を調整でき、腰椎と座板への荷重配分を変えて最適の居住性が得られます。
調整に当たっては、まずNo.１で最も快適なポジションに調整し、それからNo.２を調整してください。

２．２．２ 肩ベルトの調整

肩ベルト調整によってハーネスをパイロットの身長に合わせていきます。この調整バックルは下の方の、座板の後端近くにあります。肩ベルトはパイロット上体の重さの一部も支え、居住性に寄与しています。

前記の背中と座板の正しい調整が得られたと判断できてから、この肩ベルトの調整を行い、パイロットの肩へのあたり方が強過ぎたり緩過ぎたりしないようにしてください。

２．２．３ 胸ベルトの調整

胸ストラップで２つのカラビナ間の距離を調整します。調整幅は３７～４９．５ｃｍです。ハスカでの初飛行の際は胸ベルトを一番短めにしておく事をお勧めします。その後フライトを繰り返しながら少しずつ調整して好みのポジションを探してください。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。

肩ベルトの端には小さなクリップが付いた伸縮ベルトがあり、離陸走行時に肩ベルトがパイロットの肩から外れるのを防げます。またベルトの接続クリップが、緊急時に役立つ便利なホイッスルになっています。

２．２．４　脚ベルトの調整

ゲットアップシステム：

ゲットアップシステムのために脚ベルトが比較的高い位置へ取り付けられているおかげで、パイロットにとって太股の動きに大きな自由が得られました。通常はメーカー出荷のオリジナル調整で問題ないはずですが、もしシミュレーターでチェックしてみて手を使わずに離陸時のシッティングポジションへの移行ができない場合は、座板の角度をチェックしてください。（前記「２．２．１背中と座板の調整の調整ポイントNo.２」の調整）それでも解決できない場合は脚ベルトを短く調整します。これは、胸ベルト中央の下にあるダブルウインドーバックルでベルトの長さを変えて行います。

Ｔロックシステム：

基本的な考え方はゲットアップシステムの場合と同じですが、ベルトの長さ調整のダブルウインドーバックルは足ベルトの取り付けバックルにあります。

２．２．５　スタビライザー

この小さな、しかし重要な調整によって、スピードバーを踏み込んだ時に背中に過大なねじれが生じる事を防ぎ、ハーネスを安定させる事が出来ます。その作動原理はとても簡単で、スピードバーを踏み込んだ時にこの小さなプラスティックバックルが、肩ベルトが胸ベルトの中に滑り込んでいる箇所でブロックし、ハーネスのベルト構造全体の剛性を高め、ハーネス全体の安定性を向上させるのです。

重要：調整は必ず左右均等に行ってください。

３ー　ハスカでの飛行

３－１　プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

確認事項：

・全てのバックルが正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。

・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置に止まっていてセーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。

・ポケットやジッパーが開いていないか。

・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。２個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。

・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

３－２　ポケット

ハスカには大容量の背中コンテナと２つのサイドポケットがあり、ジッパーで閉じられます。給水キャメルバッグ用コンテナは背中コンテナの中にあります。

３－３　キャメルバッグ

ハスカは給水キャメルバッグ装備の機構を持っています。背中コンテナの中の専用コンテナポケットにキャメルバッグを入れたら、背中コンテナの上部左側に開口している穴に給水ホースを通し、左肩ベルトのライクラ製伸縮カバーの下を通って写真で示されている穴から前へ出してください。

３－４　水上でのフライト

水上でのフライトに関して、ハスカで特に問題となる点はありませんが、いずれにしても着水は常に危険である事に違いはありません。水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なフライトジャケットを使用してください。

３－５　トーイング

ハスカはトーイングでの離陸に用いる事が出来ます。トーイングブライダルのリリースは必ず、カラビナに直接かけてカラビナの開閉ゲートがリリースとは逆の後ろ側を向いているようにしてください。詳細はトーイングリリース機材に付属の説明書を読むか各人のフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターにお聞きください。

３－６　ランディング

ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなるエアバッグ バック プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

３－７　ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄する代わりにメーカーまでお戻しください。メーカー側で正しい廃棄処分を行います。

３－８　自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

４－　ハーネスの収納

ハスカの収納方法は基本的に他のハーネスと同じですが、独自のエアバッグ機能を保つために、エアバッグの後部を最後にハーネスの後部の上へたたんでください。

５－　特徴とオプション装備の内容と取り付け

５－１　サイドプロテクションの取り付け

ハスカには、このハーネス専用に開発されたサイドプロテクターを装着する事が出来ます。この装着の際は、まず座板を上げて作業スペースをつくります。（写真１・２）座板の下の２つの専用バッグに入っている標準プロテクターを取り外します。（写真３）同じ収納場所にサイドプロテクターを入れます。（写真４）いったんセンターの２つのバッグに入れたら、（写真５）プロテクターの両端を両サイドの伸縮素材のバッグに納めます。（写真６・７）座板を元に戻します。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真５

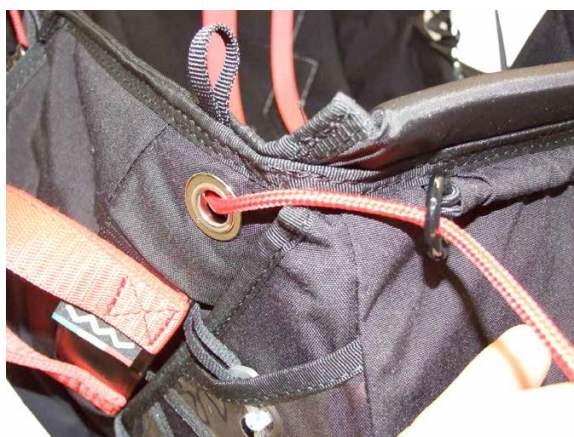
写真６

写真７

５－２　スピードシステムの取り付けと調整

最適なシッティングポジションに調整できたら、アクセレーターの調整を行ないます。このハーネスは通常タイプのスピードシステムアクセレーターなら全て装着可能です。

座板の前にはスピードバーを保持するゴムヒモがあり、緊急パラシュート開傘時に緊急パラシュートハンドルがスピードシステムに絡むのを防いでいます。スピードバーのラインはまず座板の前のゴムヒモに付いているリングの中を通し、座板の前の角の近くにある穴からハーネスの中に入り、そこから座板の後ろの角の近くにあるプーリーを通って上へ伸ばして最後に伸縮ベルトに取り付けられた小さなサイドリングの中を通しておきます。このサイドリングのおかげで、スピードシステムラインがパラグライダーのライザーから外してあるときにハーネスの中に入ってしまうことを防いでいます。

スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーのラインの長さを調整してください。足を離したときにフットレストがハーネス前部の下１０ｃｍ以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、意図しないで飛行中に常にスピードシステムが作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。

５－３　リラックスバー

すでに装着されているタイプ以外にも、全てのウッディーバレー社製ハーネスにリラックスバーを後付け装備することが出来ます。リラックスバーがあれば、パイロットは脚を伸ばした状態で足をサポートに乗せてくつろぐことが出来ます。この飛行姿勢は昔からの脚を垂らしておく姿勢よりもずっと楽と思うパイロットも多いです。リラックスバーの取付けは、リラックスバー付属の取り扱い説明書をご覧下さい。

５－４　クイックリリースカラビナ

ハスカはクイックリリースカラビナを使用することが出来ます。正しい取り付け方については、クイックリリースカラビナ付属の使用説明書を参照してください。

６－　メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。また、ハーネスは２年に１度、販売者に点検してもらうことと、２年に１度メインカラビナを交換することをお勧めします。
ハーネスの不要な損耗･劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。
パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。
ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスティック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。
ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。
もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。
ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはならず、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが作業いたします。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。
メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。
高性能で軽量なハーネスを実現するために、ハスカでは高級な素材を使用していますが、標準的なハーネスよりも軽量な素材を使用していますので、ハスカの使用・収納の際は、常に細心の注意をお願いいたします。正しい使用によってハーネスは長持ちします。

皆様が、ハスカによって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

7ー　テクニカルデータ

Distance between karabiner and seat　Size M: 43 cm – Size L: 45 cm – Size XL: 47 cm
Distance between karabiners (min – max), “Get-up” system
Size M: 37-48 cm – Size L: 37-48 cm – Size XL: 37-49,5 cm
Distance between karabiners (min – max), “T-Lock” system
Size M: 37-48 cm – Size L: 37-48 cm – Size XL: 37-48 cm
Size of polypropylene seat,　size M 33 x 30 x 34 cm
Size of polypropylene seat,　size L 35 x 32 x 36,5 cm
Size of polypropylene seat,　size XL 37 x 34 x 39 cm
Total weight, complete with reserve parachute handle, karabiners and protection
Size M: 3,9 Kg – Size L: 4,15 Kg – Size XL: 4,4 Kg
Type of protection　Self-inflating airbag
Type of straps　Get-up / T-Lock
Reserve parachute housing　Under the seat, with lateral handle
Number of certification

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、
記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。

この取扱説明書は予告なく変更されるものです。ハスカの最新の情報は、
ウッディーバレー社のホームページ　http://www.woodyvalley.com
あるいは、㈱スポーツオーパカイトのホームページ　http://www.opa.co.jp
でチェックしてください。

Latest update: APRIL 2013